

緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.179

発行:令和元年8月1日

講習会のご案内

8月の講座お申込み・受付は、7/20日から
9.10月の講座お申込み・受付は、9/15日から

「四季成り風イチゴ栽培講座」

とき 令和元年8月17日(土) 1,500円
午後1:30~3:30 定員30名
講師 緑のセンター相談員



「神楽岡公園 夏の自然観察会」

とき 令和元年8月18日(日)
午後1:30~3:30 定員20名
講師 みどり21の会 成田 一芳さん



「旭川でハマボウフを育てよう」

とき 令和元年9月22日(日) 1,000円
午後1:30~3:30 定員20名
講師 緑のセンター相談員



「庭木の冬囲いを覚えよう」

とき 令和元年10月5日(土)
午後1:30~3:30 定員20名
講師 緑のセンター相談員



「ヒオラと秋植え球根の寄せ植え」

とき 令和元年10月6日(日) 2,000円
午後1:30~3:30 定員20名
講師 緑のセンター相談員

連続講座を受講の方々へ
~第3回のお知らせ~
各講座
午後1:30~3:30

「タイルトキソウ・サキソウ講座」9/15(日)

「菊ガーデン講座」10/12(土)

神楽岡公園 緑のセンターまつり

令和元年8月11日(日・山の日) 午前10時~午後4時



緑のセンター内:花と緑の展示 ミニ盆栽、山野草、盆景旭川愛好会、押し花(販売あり)

芝生広場:神楽岡太鼓演舞、よさこい演舞、フラワービンゴゲーム、苗木等のプレゼント、親子餅つき

各テント:青空ヨガ教室、花と緑の相談コーナー、押し花無料体験

青空体験教室、農産物市、園芸市、納涼ビアガーデン(焼き鳥、アイス、生ビール、シンギスカン)、縁日コーナー(ポップコーン、わたあめ)



展示会のご案内

「押し花展」8月3日(土)~25日(日)

【休館日のお知らせ】

4月~10月は第2・4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)
11月~3月は毎週月曜日が休館日です。(")



〈園芸の基礎知識〉 植物の葉っぱの働き

～ 葉っぱは何故緑色なのか ～

■葉っぱの緑色の正体は

植物には葉っぱがあり、ふつう、葉っぱは緑色をしています。これは、葉の中に緑色の物質が含まれているからです。葉っぱを緑色に見せているものの正体です。これは、クロロフィルという物質です。クロロフィルは緑色の素になる物ですから、物質というよりは色素です。葉っぱが緑色に見えるのは、クロロフィルという色素が含まれるからです。

■葉が緑色に見える理由

葉っぱが緑色を発光しているわけではありません。私たちがふつうに光と呼んでいる、太陽の光や蛍光灯、白熱球の光などの白色光が葉に当たると、クロロフィルは緑色に見えるということです。それは、白色光が当たると、それに含まれる青色光と赤色光を積極的に吸収するのに対し、緑色光をあまり吸収しないという性質です。クロロフィルに吸収されない緑色光は、反射されたり、通り抜けていきます。

緑色光は葉っぱに当たると反射して、上から見ている人の目に入ってきます。そのため、葉っぱは緑色に見えます。葉っぱに当たった緑色光の一部は反射されないで葉っぱの中に入り、中を通り抜けてきます。そのため、下から見ると、緑色光が葉っぱからでてきて目に届き、葉っぱは緑色に見えます。結局、上から見ても下から見ても、葉っぱは緑色に見えるのです。

(参考資料:ソフトバンククリエイティブ「植物学「超」入門」、「葉っぱのふしぎ」ほか)

図 葉が緑色に見える理由



「夏に楽しむ花の寄せ植えづくり」講座

令和元年6月に実施された「夏に楽しむ花の寄せ植えづくり」講座を紹介します。

この講座では、できるだけ初夏から晩夏まで花が楽しめるよう1年草と多年草の花材を選定し、花物と葉物を組み合わせたコントラストなどを考えた寄せ植え講座です。

参加者は9名。講師は当緑のセンター相談員で、事前に寄せ植えの基礎について講義を受けました。

花の咲く期間や花色、葉色などを考慮して季節感のある花苗であったり、育てやすく管理しやすい材質の鉢や用土など様々な要素を組み合わせることを学びました。

寄せ植えに用いる用土は、当緑のセンターで作成して販売もしているこだわりの用土で、赤玉土(中粒)60%、腐葉土30%、火山礫(中粒)10%の用土です。今回使用した鉢はプラスチック鉢(コルティポット10号)、使用した花苗は、チェリーセージ(シソ科・赤系で背が高め)、ブルーデージー(キク科・青色で背は中程度)、イトマ(キキョウ科・白系で背丈は中程度)、ニチニチソウ(キョウチクトウ科・ピンク・背が低い)、ワイヤープランツ(タデ科)、ヘデラ・ヘリックス(ウコギ科)の6種類を使用しました。

植物の生長した姿をイメージし、カラーコーディネート(組み合わせ)を考え、高低差をつけたり、ドーム状に茂らせるなど、受講者同士で相談しあいながら、個性的な寄せ植えを作り上げました。

それぞれ自慢の作品2鉢を持ち帰られ、「毎日の忙しい仕事から離れて癒されました。」「また、友人を誘って参加したい。」などという声をかけていただきました。



植物の病害虫

その50 「ほうれんそう^{いちょう}萎凋病」



初期の症状



地上部：黄化し、萎れる



地下部：褐色となる

1 寄生しやすい植物

ほうれんそう(アカザ、シロザ、サナエタデ、シソ、コイヌガラシなどの根の周りに本病原菌が存在していることもあります)。

2 被害

各地のほうれんそう栽培地帯で発生しています。特に雨よけビニールハウスでの発生が著しく、発生時期は7月下旬から8月にかけての高温期(25℃～28℃)に集中しています。

3 生態

幼苗期の萎凋症状は、本葉が展開する頃から現れはじめ、最初は子葉がしおれて枯死します。本格的な発病は、本葉が4～6枚から収穫期にかけてみられ、古い下葉から黄化、萎凋が起こり、しだいに若い内側の葉に進展し、生育不良となり枯死に至ります。主根、側根の先端部あるいは側根基部から黒褐色ないし茶褐色となり、導管部が黒褐変するのも本病の特徴の一つです。主根の感染部位における菌糸(かび、フザリウム菌属)の生育が旺盛な場合には、病株を丁寧に掘り起こして観察すると、土壌粒子が付着して塊状となっているのが認められます。

4 防除法

耕種的防除

- 健全種子か消毒済み種子を使用して下さい。
- 発病の激しい株は早期に抜き取り、圃場衛生に努めます。
- アカザ、シロザ、サナエタデ、シソ、コイヌガラシなどの雑草が病原菌を保菌していることがありますので除草に努めます。
- 発病圃場からの土壌の持ち込みは、本病の発生や被害を増大する危険性があるので、機械、作業服、長靴などに付着した土壌はよく水洗いし、感染土壌を持ち込まないようにします。

薬剤的防除

- 最新の登録農薬を確認し、土壌消毒を行います。

ストレプトカーパスを楽しむ

イワタバコ科 ストレプトカーパス属

葉の間から花茎を伸ばし、うつむくように清楚な花を咲かせます。花が大きく花色も豊富なので、室内で栽培する小型の鉢物として長く楽しむことができます。葉がロゼット状(ケニア・タンザニア原産)のもの、茎が立つタイプ(ヨーロッパ・アメリカでの改良種)のものがあります。セントポーリアと同じ仲間の多年草で「ウシノシタ」の和名があります。



……………く 失敗しない管理のコツ ……………

- ① **置き場所は**、夏の暑さと強い直射日光が苦手なので、レースのカーテン越し程度の柔らかな日差しのある場所を選びます。また、日常の手入れで葉を切りすぎると水の吸い上げが悪くなったり、光合成能力が低下するので生育不良になります。冬期間は光線不足になりやすく花つきも悪くなるので、よく太陽に当てるようにします。根の成長が速いので植え替えは、春か秋に行います。
- ② **水やりは**、比較的水分を好む植物なので鉢土の表面が乾いたら鉢底から流れ出るだけたっぷり与えます。晩秋から冬の水やりは、むしろ乾かし気味に育てることで5℃近くの低温にも耐えることができます。しかし、空中湿度が低下すると、ハダニがつきやすくなるので葉水をあたえて、予防に努めます。
- ③ **肥料は**、生育期間中に緩効性肥料を置き肥します。開花中は花を次々と上げてくるので、2,000倍程度に薄めた液肥を月に2～3回程度与えるようにします。
- ④ **株分け、葉ざし、挿し木で増やすことができます。**株分けは植え替えと同時に行います。葉ざしと挿し木は6月～7月頃が適期です。7cmほどの挿し穂をつくり、清潔な「挿し木用の土」に挿して増やすことができます。

展示室の植物 (85)

アメリカキササゲ 学名：Catalpa bignonioides ノウゼンカズラ科 キササゲ属

今年も緑のセンター展示室の裏山で白い花が咲きました。樹高は約 10m の広葉樹で開花時期は6～7月。直径3cm程度の白い花をまばらに着けます。花の内側に紫色の斑点があるのが特徴です。

10月には、細長くてキササゲそっくりの実をぶら下げるので「この木はマメ科にちがいない。」と思った人が名前を付けたのかのかもしれませんが、そのサヤを割っても中にはマメはなく、うすくて細長いタネしかないのです、この木がマメ科ではなかったことに驚いたことでしょう。別名を「カタルパ」。明治10年代に同志社大学の創立者である新島襄がアメリカ土産として持ち帰った種を子弟に配り、その種から育った木が全国に広がったといわれています。謂れを知ると歴史のロマンを感じます。

